

スマートシティ官民連携プラットフォーム 令和4年第2回 都市マネジメント分科会



第2回都市マネジメント分科会 プログラム

プログラム（確定）	時間
1. 「スマートシティサービスの連携ユースケース」の説明	20分
2. アジェンダ 1 に関する質疑応答	10分
3. データを活用したまちづくりに関する事例発表 岡崎市 鈴木 様 松山アーバンデザインセンター 三谷 様 NEC 渡 様	45分
4. グループディスカッション テーマ①：データを活用したサービス展開について テーマ②：官民連携でデータ活用の取組を行うことの課題や工夫	40分

1. 「スマートシティサービスの連携ユースケース」 の説明

2. 質疑応答

3. データを活用したまちづくりに関する事例発表

4. グループディスカッション

ご入室されましたら

- ご参加状況を把握するため、ZOOM上でのお名前の表示を「所属名＋氏名」に変更ください。（個人の方は所属名は不要です）

本日のゴール



まちづくり分野でデータ利活用のサービスを展開するうえで、取組に関するアイデアや官民連携のデータ利活用における民間ニーズを明らかにし、さらなるサービス展開につなげる



本日の流れ



ファシリテーターと共にグループディスカッション形式進行いたします
2つのテーマについて、ディスカッションできればと思います

- ① データを利活用したサービス展開について
- ② 官民連携でデータ活用の取組を行うことの課題や工夫

テーマ①：データを活用したサービス展開について

自己紹介とテーマに関するコメントをお願いします

目安：1分



①○○○社の○○です。

➤ 業種やお仕事内容を簡単に教えてください

②スマートシティに関して○○の取組を実施しています。

➤ スマートシティ・デジタルサービスに関して関与されているサービスやエリアがあれば教えてください

③○○データを活用して○○するサービスの展開につなげたら便利だと
（面白いと） 思います。

➤ 実現したいサービスに関して、具体的なデータ（人流データ、水位データ...etc）とともに教えてください

➤ 実際にデータ取得に関わられている方は、具体的な取得方法（デバイス等）も併せて教えてください

第2回都市マネジメント分科会 ディスカッション結果とりまとめ

テーマ①：データを利活用したサービス展開について

分野	実現したいサービス	概要	使用するデータ
交通・モビリティ	タクシーの走行ルート最適化	まちなかの人流データ（どこに人が多くいるか）をリアルタイムに把握することで、タクシーが乗客を発見するプロセスを効率化する。（現在は、過去の人流データを活用している）	人流データ
エネルギー・環境	移動解析によるCO2削減	人の移動の可視化を行い、可視化結果を基にした脱炭素やCO2削減に向けた取組み。	人流データ
	環境負荷の可視化	環境データをもとに環境負荷の可視化を行い、脱炭素の取組向上につなげる。	環境データ
観光・地域活性化	事業活動へのレコメンド	データを組み合わせ分析することで、データ活用による店舗の売り上げ等の事業への効果を明らかにし、レコメンドする。	画像データ・人流データ・商店の売上データ
	まちなかで行われる活動分析	まちなかで行われる具体的な活動（着座、飲食など）	AIカメラによる撮影データ
	観光体験サービス	XRに360度カメラで撮影したデータを落とし、遠隔で地方の観光をリアルに近いかたちでた意見する。	XRデータ、360度カメラ撮影データ
	来街者の満足度調査のデジタル化	現在紙で行うことの多い来街者アンケートについて、（特定の位置にいたら自動的にスマホに回答依頼のプッシュ通知が届くなど）回答のデジタル化を行うことで、高頻度でまちの状態の確認を行えるようにする。	スマホでのアンケート回答データ
健康・医療	ウェルビーイングミラーによるヘルスケア情報の可視化	介護事業等への活用 ウェルビーイングミラー（ミラーで表情や脈、歩き方、姿勢等のデータを取得し、本人にアドバイス等を提供する。）	ヘルスケアデータ
	運動のレコメンド（散歩ルート等）	ウェアラブルデバイスを活用 バイタルデータ（体温、脈拍）、やその日の天気情報、対象地の地図情報を活用し、散歩・ランニングのルート等運動のレコメンドを行う。	バイタルデータ（体温、脈拍）、天気情報、地図情報
セキュリティ・見守り	顔認証による見守りサービス	発電所の監視で使用しているカメラをまちづくりに活用したい。（見守りサービス、顔認証サービス）	顔データ
その他	人の興味の可視化	デジタル教科書を使用する際にタブレットで利用者の視線データを取得し、利用者がどの内容に注意を払ったか把握をすることで、人の興味の源泉を把握する。	顔の視線データ

テーマ②

公共団体（行政やまちづくり団体）と
データを活用した取組を実施するうえで
やりづらさを感じたことがありますか？

ある



「はい」ボタンを押下

ない



「いいえ」ボタンを押下

わからない

（公共団体の方など）



「コーヒー」ボタンを押下

第2回都市マネジメント分科会 ディスカッション結果とりまとめ

テーマ②：官民連携でデータ活用の取組を行うことの課題や工夫

課題分類	課題内容	解決に向けたアイデアや工夫
オープン化	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報のオープン化が難しい。データ自体はあるけど出てこない。 ・事業者のクローズドなデータをどうオープンにしていけるか。 ・住民理解を得る、利便性を感じてもらうための工夫が必要。 ・オプトインの徹底、ユーザー目線のサービス。 ・パーソナルデータを連携・活用していくためには時間が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データが誰のものなのか、という点は論点。データをオープンにして活用していくための取組が必要。あらかじめオープンにする、と決めて取り組んだほうが活用が進むのでは。 ・携帯のデータのようなサービスの結果データ、当たり前を取っているデータから展開していくのがスムーズ。
許認可	<ul style="list-style-type: none"> ・公道の占用許可に時間がかかり設置が困難になった。 ・防犯カメラ以外のカメラの設置について許可が下りづらい。 ・屋外広告条例（東京都）あり。 ・公道に広告を掲載する、ということ自体が問題であり特例的に認められている状況。 ・旗はOKだがデジタルはNG、という状況になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラ・サインージ設置を促進する上での国土交通省からの後押しとなるガイドライン等があると望ましい。
プロジェクト体系	<ul style="list-style-type: none"> ・年度区切りのPJ設計のため、長期の取組が難しい。 ・事業者同士が仲良しではない場合に推進が難しい。（行政発注の場合事前に調整しづらい） ・庁内で部局横断で対応する際に、連携が難しい。部局間で認識や知識に差があり、連携が難しい民間事業者で技術が重なる部分があるが、行政でも企画課と担当課の差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・官民での責任分担を明確にする。
コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・センサーについて、コストがかかり整備が難しい。 ・人流データなど取得していても、掛け合わせるデータ・補うデータを購入する必要がある。 ・自治体の予算の制限がある、かつ年度区切りの場合が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再開発などその都市の目玉のプロジェクトでありお金が付きやすい取組と連携していくと予算を確保しやすい。
デジタルリテラシー	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体のデジタルリテラシーの欠乏、事業者との差から取組が進みづらい。 ・複数のサービスアイデアを民間事業者から提案された際に、自治体にとって真に必要なもの、やりたいものを選ぶことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の課題は市民アンケートの結果から抽出し、課題の優先順位をつけている。そのうえで民間事業者から提案いただき、課題解決に向けた取組を進めていく。

**貴重なご意見、並びに
ご協力誠にありがとうございました**